

防衛講演会

講師 宗像 久男 氏

日時 平成22年11月5日（金）

場所 鹿児島市
（ジェイドガーデンパレス）

演題 「厳しい情勢下、我が国はいかに進むべきか」 (要旨)

9月7日わが領土尖閣諸島沖で中国漁船衝突事件が発生し、那覇地検が突如24日船長を釈放した。講師は新華社電での衝突報道とともに、1982年以来中国海軍が【再建・躍進・完成期】へと2040年に米海軍の太平洋・インド洋支配の阻止を目指す中国海洋戦略を説明。さらに、米軍の比国撤退から比国やベトナムが領有を主張する南沙や西沙諸島に進出して構築物を作り既成事実化し、「南シナ海を中国の核心的利益」とのトラブルを増している。日本周辺では、4月沖縄本島・宮古島付近から沖ノ島海域での演習に向かう中国海軍の通航も記憶に新しい。中国の領有権主張は『世論戦・法律戦・心理戦』と緻密な手法で推進し、正に自国で宣言した1992年の領海法により尖閣諸島をも中国領土と言ひ、じ後、調査船や海軍艦艇を送り、今や、漁船や“民間人”を派遣して領有の既成事実化を図り、力づくでの実効支配へ完成段階に近づいていると思える。中間線付近での白樺等ガス田採掘に見る海洋権益獲得の動きも含め、経済・軍事成長著しい中国の不安定さは隠せない。講師は、1895年のわが国領有以降の中国作製地図、中国からの救助感謝状を見せ、国連が1970年頃海底資源埋蔵の可能性を発表以後領有権を主張し始め、最近第二列島線構築にも進むような強気の行動、国内デモ等“愛国運動”を進めており、白書にいう『中国の動向は、わが国を含む地域・国際社会にとっての懸案事項であり、慎重に分析していく必要がある』との観と強く感じました。

北朝鮮については、9月金総書記の三男金正恩の三代世襲制を確実にし、最近も核保有や先軍思

想に奔走し、3月韓国の哨戒艦沈没事案等中朝の微妙な連携を説明。さらに泣致問題等にも何ら解決への進展がありません。

ロシアについては、講師が7月「ビザなし交流」に参加しての北方領土の現状を紹介し、「9月2日を対日戦勝記念日」制定、11月1日大統領はわが国を無視して国後島を初訪問、中露両国が結託したかのような『領有権主張』で日本に迫った。1855年以來の日本領を戦後65年間不法占拠しており、終戦詔勅後の侵攻・占拠であって条約も結ばず何ら正当性もない。これら数々の主権・領有権の問題に正当かつ毅然とした国家の主張が望まれる。「寸土たりとも国土の略奪を許せば、国家は全土を失うことになる！」と銘記すべきです。今や唯一の同盟国、日米同盟も普天間移設問題の迷走以來日米間の信頼感が揺らぎ、中露等はこの結束の隙間を衝く事態拡大でもあろうかと猛省しています。

わが国は今後どう進むべきか。米国オバマ政権は、中東からアジア外交へ軸足を転換し、中国にも経済・安保面で責任ある行動を求めている。わが国は

- ① 日米同盟の真の強化
- ② 戦後の防衛政策の転換、その上に、自衛隊の増強。特に南西正面の防衛態勢の強化
- ③ 『国民全体の質の向上』

が必須であり、父兄会は国民啓蒙の先兵の役割を期待する。また、子弟の活躍する自衛隊、わが国を愛し身命をも国に捧げる質の高い集団がここにおり『最後の砦』の覚悟で国思う集団だとしっかり認識頂きたい。